

東通原子力発電所1号炉 プラント側審査に向けた対応状況について

2021年11月4日
東北電力株式会社

1. 東通1号炉のプラント側審査に向けた対応状況について

- 東通1号炉については、現在、基準地震動、基準津波についてご説明中。
- プラント側審査移行に際しては、先行プラントの新規制基準適合性審査を通じて得られた技術知見を踏まえ、代替循環冷却系の追加設置などの対策を行う予定であり、こうした新たな対策について、耐震性確認や有効性評価等の再解析が必要な状況。
- また、基準津波確定後には、PRAハザードの策定が必要。
- このような状況であることから、当社としては、適合性審査の軸となるPRA、有効性、技術的能力といった一連のシビアアクシデント対応についての再評価、再解析等を終えた後に、プラント側の審査を効率的に進めていきたいと考えている。

対 策	検 討 状 況
地震・耐震設計方針	<ul style="list-style-type: none"> • 現在、「震源を特定して策定する地震動」のうち「内陸地殻内地震」について審査中。 • 「震源を特定せず策定する地震動」および「基準地震動の策定」の審査準備中。 • 「震源を特定せず策定する地震動」のうち、「標準応答スペクトル」については、規制委員会からの指示に基づき12月までに補正予定。 • 耐震設計については、基準地震動の決定を踏まえ、今後実施。
津波・耐津波設計方針	<ul style="list-style-type: none"> • 東通の津波高さに影響の大きい「十勝根室沖から岩手県沖北部の連動型地震による津波」について概ね審査済。 • 「連動型地震以外に起因する津波」および「基準津波の策定」の審査準備中。 • 耐津波設計については、基準津波の決定を踏まえ、今後実施。
設計基準事象対処設備	<ul style="list-style-type: none"> • 先行炉および女川2号炉の審査実績ならびに知見を踏まえた、再評価項目の抽出について実施中。 • 基準適合性を確認するうえでの、前提条件などの見直しを行った上での再評価について今後実施。
重大事故等対処設備	<ul style="list-style-type: none"> • 先行炉の審査経験を踏まえた技術的知見に基づく、追加対策についての整理を実施中。 • 先行炉および女川2号炉の審査実績ならびに知見を踏まえた、前提条件の見直しを実施中。 • 事故シーケンスの選定結果などを踏まえた有効性の再評価を今後実施。
技術的能力	<ul style="list-style-type: none"> • 有効性評価の結果を踏まえ、構築すべき体制および策定すべき手順について決定していく事になる。このため、技術的能力に関する検討は、今後実施。

2. 今後のプラント側審査再開までの主な対応

- ▶ 基準地震動および基準津波について概ね妥当との判断が得られた後、PRAハザードの策定を行う。
- ▶ その後、策定したPRAハザードに基づき、原子炉施設・機電設備に対するフラジリティ評価を行い、PRAの再評価により事故シーケンスを確定させる。
- ▶ 有効性評価により必要な体制と手順を抽出し、これらを技術的能力として取りまとめる。

